

共に学び、行動して

「笑顔」になれる業界を次の世代へ



MIRAIぱちんこ産業連盟代表理事

東野 昌一

INTERVIEW

2020年10月、同友会とPCSAが合併して設立された新団体・MIRAI。ホール企業数65社、店舗数は1000軒超と、ホール団体としては全日遊連に次ぐ規模となる。パチンコ産業を次の世代につなげるために、政策提言と行動で業界改革を進めることを主目的とした団体が描く未来とは——。(PIDEA182号より転載)

M みなさまのみじかな
| いつものあんしんな
R リラックスタイルの
A アミューズメントを
| イノベーションする



—発足から丸1年が経ちました。振り返っていかがでしょうか。

東野 コロナとの戦いの中で業界はどうなるか分からず、自社がどうなるかも分からず。同時に旧規則機の撤去という重要課題もあり、かつてない厳しい環境下でのスタートでした。業界に対して提言をしてそれを行動に移していくという設立趣旨があるのですが、それよりも業界間で議論をすることが多い1年でした。

そうした中で21世紀会の中ではMIRAIに役割を求められる部分もあって、今までとは違った立ち位置での行動はやってこられたのかなと思います。また、こういう危機の中だからこそ、全員でこの業界を守るんだという意識が強まったと感じています。

—コロナ禍で業界団体間の距離が一気に縮まったと。

東野 そうです。業界団体の役員からは頻繁に連絡があって、議論する内容の多くは旧規則機の撤去に関する事。当初は協力休業要請で一部のホールが営業を続けバ

ッシングを受けたことへの対応でしたが、その後の議題はずっと旧規則機の撤去です。真面目にやった人が損をする何とかしなければという強い決意がありました。

—その中のMIRAIの役割は。

東野 全日遊連や日遊協などそれぞれできることとできないことがある中で、ホール団体であるMIRAIだからこそやりやすいことが出来ます。行動することができるという部分で落とし込んでいき、その1つが「ホール4団体誓約書確認機関」です。ただし、この運営は全日遊連、日遊協、余暇連や全国のホールの協力があったからこそできたことです。

—新団体として本来の活動の部分はどうですか。

東野 そこはできないことの方が圧倒的に多かったです。同友会時代にはみんなで集まって議論を重ね、次の行動へ移すという大きな流れがありました。しかし、Zoomだと報告会になってしまって議論がぶつかり合うことがありません。ですから本来の団体の意義

やあり方が生かしきれていないという思いがあります。諸問題には対処していますが、議論を出しあって解決の道を探るまでには至っていない。会員の方々が会に出て、いろんなことを吸収して地元に持ち帰っていただく。それができていないのが一番歯がゆいところです。

—この先、どのような活動を予定していますか。

東野 短期的な目標としては、地方の年配層がご来店できていないような状況が続いているので、ホールに足を運んでもらうための広報に力を入れていきたいです。それはホールだけでなく、メーカー・販社も含めて21世紀会で行動すべきだと思っています。MIRAIではそのきっかけとなるような提案を行うつもりです。

広報活動という部分では日遊協が力を入れていますから、お互いに情報交換しながら発信の協力をしていくべきだと思っています。ただ、言えるのは僕たちがこうして団体活動するのはお客様



一般社団法人
MIRAIぱちんこ産業連盟
Mirai Pachinko Industry Federation

ま、社員、出入りの方々を守るためです。そのためには業界は成長産業であるべきであり、安心して遊べる大衆娯楽であるべきです。そのためには何をすべきかという点でやはり広報が必要であるということです。

中期的には、いま重要課題になっているスマートパチンコ、メダルレス、キャッシュレスに関してはいろんな展望が必要なのでその学びと議論です。この3つの今後についてではメリット・デメリットを含めてホール団体としてメーカーや販社と協議していくべきだと思っています。CR機の時のように一方的に開発しようとはメーカーさんも思っていませんから、一緒に協議しながら業界の発展につながるものにできればと思っています。いまは非常に厳しい状況下ですが、モチベーションだけは維持して、こんな風な明るい見通しがあるという形を示したい。そのために重要なのが、自分たちが何をやりたいのか、何ができるたらお客様が喜ぶのかという部分です。店が儲かるより大事にしなければいけないのが、お客様が来店して笑顔になって、明日またくるよといつていただけるどうかです。

長期的な視点では、自分にも息子がいますが、後を継いでもらうには楽しいと思える業界でなければいけません。20年～30年前は笑いながら仕事をしてそれでもお客様や出入りの業者に喜んでいただけた。でも最近は顔を合わせば暗い話をして、お客様には文句を言われ、お客様やオーナーの顔色をうかがいながら仕事をしている状況では次の世代へバトンを渡せません。産業としての長期的な視点に立てばお客様が楽しん

でいただくことが何よりも大事です。利益を絞り取ればお客様が減り、その下がった利益を守るためにには事業を縮小していき、必然と産業も縮小していくしかありません。

一お客様の来店を促し、お客様に楽しんでいただくための政策提言を進めていくと。

東野 政策提言をし、それを実行に移していくことで、お客様に楽しんでいただける環境がつくられ、会のみんながハッピーになって、それが次の世代へとつながる方向に進んでいけばと考えています。そして、その様子を見て自分も参加してみようと思っていただければ、会の推進力はさらに増してくるでしょう。また、MIRAIの人材は豊富なので必要であれば各団体で活用していただければと思っています。その結果、産業が発展してもらえばそれがMIRAIの

目指す答えです。

一最後にメッセージを。

東野 MIRAIは政策提言集団です。いまはオーナー自らが学ばなければいけない、それだけ強い危機感を持たなければいけない状況です。また、オーナーだけでなく社員も含めて知恵を絞って行動に移していかなければならない時期です。MIRAIはそのためのツールですし、いろんな会社が交わることでさまざまな経験や価値をつかみ取るチャンスがある場所だと認識しています。僕自身もいま、いろいろな人たちと一緒にいろんなことに取り組めるのは、組合や団体活動を通じて多くの人からたくさんのこと教えられたからだと思います。MIRAIは常に「この指とまれで」待っています。1人でも多くの仲間が集っていただければ、業界がより前に進むチャンスが生まれると確信しています。



M みなさまのみじかな
| いつものあんしんな
R リラックスタイルの
A アミューズメントを
| イノベーションする